

## 中国語の“唱红”における自動詞用法について

崔婷

### 动结式“唱红”的受事前置现象

崔婷

本文以动结式“唱红”为例考察了其受事前置现象。在动结式“唱红”的受事前置现象中通过语料库的实例可以发现动结式“唱红”会与表示处所的名词性成分共现，如“这首歌唱红了大江南北”。这样的现象与通常的受事前置句有所不同。为了考察“大江南北”这样的处所成分与受事前置之间的关联，本文从“唱红”的进行体作为切入点考察了两者的关系。“这首歌唱红了大江南北”事件与持续的时间有着密切的关系，即它不能是一次性完结的事件，而是经过较长时间或者是多次事件的累积才能完结的事件。而此时的处所成分很难用指定的处所词替代。这也说明与“唱红”共现的处所成分不是具体的处所名词，而是范围较广的处所名词。

#### 目次

1. はじめに
2. 「V1 + “红”」の使用状況
  - 2.1 コーパスの紹介
  - 2.2 データの分析
3. “唱红”の自動詞用法
  - 3.1 “唱红”とその項構造
  - 3.2 “唱红”とその持続時間の関係
  - 3.3 “唱红”と共起する場所名詞句
4. 結論と今後の課題

## 1. はじめに

中国語の「動詞＋結果補語」(verb + resultative complement) 構造 (以下では V1 + V2 と表記する) には自動詞用法もあるし、他動詞の用法もある。

- (1) a 他 打碎 了 花瓶。  
 彼 壊す 完了 花瓶  
 彼は花瓶を壊した。  
 b 他 唱红 了 这首歌。  
 彼 歌う一人気が出る 完了 この曲  
 彼はこの曲を有名にした。

上の文の目的語を省略すると次のようになる。

- (2) a\*他 打碎 了。  
 彼 壊す 完了  
 彼は壊した。  
 b 他 唱红 了。  
 彼 歌う一人気が出る 完了  
 彼は (ある歌を歌って) 人気が出た。

(2b) は目的語を省略した自動詞文として成立するが、(2a) は非文になる。今度は目的語を主語にすると、それぞれ次のようになる。

- (3) a 花瓶 打碎 了。  
 花瓶 壊れる 完了  
 花瓶が壊れている。  
 b ? 这首歌 唱红 了。  
 この曲 歌う一人気が出る 完了  
 この曲はヒットした。

動詞の対象 (Theme) を主語にすると、(3a) は成立するが、(3b) は成立しない。このことは (1b) の“唱红”と (1a) の“打碎”とは性質が異なることを示すものである。

本稿では、“唱红”と“打碎”の性質の相違に着目し、

“唱红”の項構造とアスペクト的性質からその異なる特性を指摘する。

## 2. 「V1 + “红”」の使用状況

### 2.1 コーパスの紹介

本稿ではモデルケースとして「V1+“红”」の使用状況を調査してみた。まず、コーパスによる出現頻度を根拠に V2 が“红” (「人気が出る」) になる場合、V1+V2 の結合パターンを見てみよう。利用したコーパスは二つある。一つは北京大学オンラインコーパス (“CCL 语料库 (网络版)”) である。このコーパスは現代中国語の研究のために作られたものであり、近現代小説、新聞、雑誌、論文などから総語数 4.77 億字収録されている。一番近い更新は 2009 年 7 月 20 日であるので、最新のデータとしては“人民网搜索 (报刊杂志)”というコーパスも調べてみた。“人民网搜索 (报刊杂志)”は“人民网”という公式サイトの検索サービスである (以下では PEOPLE コーパスと称す)。その中で中国の共産党新聞“人民日报”を含んだ 22 個の新聞雑誌の記事が無料で検索できるものである (2014 現在まで更新中)。

### 2.2 データの分析

今回の CCL (「北京大学オンラインコーパス」) 検索で“一红 (「人気が出る」)”の V1 に来た動詞 7 語はそれぞれ“走、唱、捧、炒、推、办、演”である。7 語のうち語彙化された“走红”を除いて 6 語を出現頻度の多い順から示すと次のようになる。

表 “一红 (「人気が出る」)”の V1 に来る動詞 6 語 (CCL により) 及び用例数

	V1 の種類	CCL	PEOPLE
1	唱 (歌う、演じる)	63	281
2	捧 (支持する)	25	431
3	炒 (宣伝する)	9	20
4	推 (推薦する、普及させる)	3	0
5	办 (経営する、運営する)	2	0
6	演 (扮する、演じる)	1	8

“一紅（「人気が出る」）」のV1には“唱”、“演”などの自動詞・他動詞として使われるものや“捧”、“炒”、“推”、“办”などの他動詞が来ており、そのうち、“唱”が圧倒的に多いことがわかる。つまり、“一紅”は“唱”と共起しやすいことが明らかになった。一方、同じ自動詞・他動詞用法に使える動詞でも“演”は“一紅”のV1に来にくいことが明らかになった<sup>1</sup>。

“唱紅”の用例数が圧倒的に多いことは以下の対立で説明できると思われる。例えば、

- (4) a 他 唱紅 了 这首歌。  
 彼 歌う—人気が出る 完了 この曲  
 彼はこの曲を有名にした。
- b 这首歌 唱紅 了 大江南北。  
 この曲 歌う—人気が出る 完了 あらゆる場所  
 この曲は全国のあらゆる場所で知られるようになった。
- c 他 唱紅 了。  
 彼 歌う—人気が出る 完了  
 彼は（ある歌を歌って）人気が出た。
- (5) a 他 捧紅 了 这个 主持人。  
 彼 支持する—人気が出る 完了 この アナウンサー  
 彼はこのアナウンサーを有名にした。
- b\* 这个主持人 捧紅 了。  
 この アナウンサー 支持する—人気が出る 完了  
 このアナウンサーが有名になった。
- c\* 他 捧紅 了。  
 彼 支持する—人気が出る 完了  
 彼は有名にした。

“唱紅”は例(4a)のような他動詞文、例(4b)のような自動詞文、さらに例(4c)のような自動詞文に使える。それに対して、“捧紅、炒紅、推紅、办紅”は(5a)のような他動詞文としてのみ使え、(5b)、(5c)のような自動詞文には使えない。このような言語事実が示す“唱紅”の特殊性がデータにおける突出した使用頻度の高さの一つの要因になっていると考えられ

る。

### 3. “唱紅”の自動詞用法

#### 3.1 “唱紅”とその項構造

中国語では動詞の自他の区別がなく、他動詞をそのまま自動詞として使える動詞がある。このような動詞は「能格動詞」(ergative verb)と呼ばれ、形態同一、自他両用の特徴を持っている<sup>2</sup>。例えば、上の例で見た(2b)と(3a)は同じ自動詞文であっても、後者は中国語で「受事主語文」(対格主語文)と呼ばれる動詞の対象が文の主語として現れる文である<sup>3</sup>。

他動詞性しか持たない対格動詞は一般的に動作主を主語にとっており、能格性を持っていない。例えば、

- (6) a 张三 杀死 了 李四。  
 ZHANGSAN 殺す—死ぬ 完了 LISI  
 張は李を殺した。
- b\* 李四 杀死 了。  
 LISI 殺す—死ぬ 完了  
 李は殺された。

しかし、能格動詞の場合、本来は他動詞の目的語である名詞句が受身文でもないのに主語の位置に現れている。

- (7) a 李四 打碎 了 花瓶。  
 LISI 壊す 完了 花瓶  
 李は花瓶を壊した。
- b 花瓶 打碎 了。  
 花瓶 壊れる 完了  
 花瓶は壊れている。

能格動詞も動作主を主語にとることができるが、動作主以外の無生物名詞を主語にとることができる。このように、“杀死”（「殺す—死ぬ」）は対格動詞であり、“打碎”（「壊す」）は能格動詞である。

“唱紅”の項構造は(1b)で示したように、二つの

項 (Agent, Theme) を持っている。(3b) で示したように、“这首歌唱红了”のような文は成立しないが、次のような文は成立するのである。

- (8) 这首歌 唱红 了 大江南北。  
 この曲 歌う—人気が出る 完了 あらゆる場所  
 この曲は全国のあらゆる場所で知られるようになった。

例(8)で“大江南北”は目的語の位置に置かれているが、状語あるいは補語の統語的機能を担っており、“唱红”の受け手という意味役割は担っていない。このような動作が行われた場所あるいは状態が現れた場所は一般に「前置詞+場所」という形で述語動詞の後ろに置かれる<sup>6</sup>。しかし、ここでは主語が“原型受事论元 (patient proto-roles)”であり、述語の後ろに“非原型受事论元 (non-patient proto-roles)”が配置され、述語を補う役割を果たしている。ここで“大江南北”という名詞性成分が表しているのは動詞の対象または受け手ではなく、場所または範囲を表す語義範ちゅうである。このような名詞句が表すのは動作行為が行う場所で、義務項ではなく、随意項である<sup>7</sup>。つまり、前置詞“在 (at)”が省略され、場所を表す補語または状語から実現されたものである。この現象について袁毓林 (2002) は次のように述べている。

“有时，不同的论元角色之间还会发生动态语义的转变，从而从一种论元角色转变为另一种论元角色。”(時に、異なる項役割の間には動的な意味変化が起こり、一つの項役割からほかの項役割に変わってしまうのである。袁毓林 2002 筆者訳) 次のような例が挙げられている。

- (9) a 我们 常常 在 食堂 吃 中饭。  
 私たち いつも で 食堂 食べる お昼  
 私たちはいつも食堂でお昼を食べる。  
 b 中饭 我们 常常 吃 食堂。  
 お昼 私たち いつも 食べる 食堂  
 お昼は私たちはいつも食堂で食べる。

(9a) でもともと“在”の目的語で、場所を表す“食堂”が対象化(“受事化”)され、(9b)では目的語の位置に置かれている。このように、項役割は対象化により、目的語の位置に置かれるのである。

“人民网报刊杂志 (PEOPLE)”では次のような例も観察された。

- (10) 去年 一首《新娘歌》 唱红 了 网络。  
 (PEOPLE)

去年 一曲 XINNIANGGE 歌う—人気が出る 完了 ネット  
 去年“新娘歌”という歌はネットで話題になった。

例(10)の「歌がネットでヒットする」ということは「ネット検索でヒットする」あるいは「ネットでヒット曲になる」ということで、曲がヒットした抽象的な一種の場所と見なすことができる。

したがって、例(8)は普通の能格構文とは違い、“大江南北”が対象化によって目的語として生起しているのである。このような場所を表す語と共起する“唱红”は能格動詞“打碎”(「壊す」)と対格動詞“杀死”(「殺す—死ぬ」)の間にある中間型であると考えられる。即ち、“唱红”は条件付きの能格動詞で、(11c)のように場所が目的語として生起する例は成立する。

- (11)a 他 唱红 了 这首歌。

彼 歌う—人気が出る 完了 この曲  
 彼はこの曲を有名にした。

- b ?这首歌 唱红 了。

この曲 歌う—人気が出る 完了  
 この曲はヒットした。

- c 这首歌 唱红 了 整个中国。

この曲 歌う—人気が出る 完了 全国  
 この曲はで中国全土でヒットするようになった。

また、このような中間型は“一下”などの時間を表す副詞とも共起する例も多く見られた。例えば、

- (12) 这首歌 一下 就 唱紅 了。(CCL)  
この曲 いきなり 歌う一人気が出る 完了  
この曲は一気に人気が出た。

- (13) 李万春 果真 未 负 梅兰芳 厚爱,  
LIWANCHUN やはり でない 背く MEILANFANG 期待  
《劈山救母》一下子 唱紅 了。(PEOPLE)  
PISHANJIUMU いきなり 歌う一人気が出る 完了  
李はやはり梅の期待を裏切らなかった。李の  
劈山救母は一気に人気が出た。

「起点」を表す“从……开始”と共起する例も観察された。

- (14) 这首歌 从这里 开始 唱紅。(PEOPLE)  
この曲 ここから 始まる 歌う一人気が出る  
この曲はここから人気が出始めた。

このように、例(12)、(13)、(14)は“一下”や起点を表す“从……开始”なども削除すると不適格になる。これらも能格動詞として使用するための条件であると見なせる。

### 3.2 “唱紅”とその持続時間の関係

ここでは V1 + V2 の表す事態が持続的なのか、瞬間的なのかというアスペクト的な検討を加えてみたい。“唱紅”の場合を見る前に、例(7)で取り上げた“打碎”の場合を見てみよう。「花瓶が壊れる」という事態はある状態から別の状態へ瞬間的に変化するということを表す。瞬間的に結果に至る変化を表す場合、「だんだん」または「徐々に」のような持続性を持つ副詞と共起することができない<sup>8</sup>。では、“唱紅”は持続性を持つ語と共起することはできるだろうか。今回検索した CCL と PEOPLE では以下のような例もいくつか出てきた。

- (15) 晋北 的 莜面、绿豆 也 逐渐 唱紅。(CCL)  
山西省 属格 エンバク 绿豆 も だんだん 有名になる  
山西省のエンバクと绿豆もだんだん人気が出てきている。

- (16) 如今, 若干个 “被” 字 组成 的 系列  
今 いくつか BEI 字 組み合わせる DE 系列  
正 唱紅。(PEOPLE)  
進行相 有名になる  
現在、いくつかの“被”フレーズがよく使われている。

例(15)、(16)の場合、持続性を表す副詞“逐渐”と進行を表す“正”との共起によって、「绿豆はだんだん人気が出てきている」、「被”フレーズがよく使われている」のように、今流行っているという現象が進行中であることを表すことができる<sup>9</sup>。このような持続時間を持つ“唱紅”は3.1で見た場所との共起とも関連があるのではないかとと思われる。例えば、

- (17) 这首歌 渐渐 唱紅 了 全中国。  
この曲 だんだん 歌う一人気が出る 完了 中国全土  
この曲は中国全土でだんだんヒットするようになった。

例(17)のように歌が中国全土でヒットするということは一定の持続時間を持つ現象である。つまり、場所または範囲における面積の変化は一定の持続時間のある現象である。また、一定の持続時間のある現象ということは動詞“唱”が何度も繰り返されているという意味内容にも結びついていることになる<sup>10</sup>。つまり、一定の持続時間がある現象(時間の継続が幅がある)ということは出来事の数が一回限りではない可能性がある。例えば、

- (18)a 这首歌 唱紅 了 整个中国。  
この曲 歌う一人気が出る 完了 全国  
この曲はで中国全土でヒットするようになった。  
b ? 这首歌 一次 唱紅 了 整个中国。  
この曲 一回で 歌う一人気が出る 完了 全国  
この曲は一回で中国全土でヒットした。

- c 这首歌 在几年时间内 唱红 了 整个中国。  
 この曲 ここ数年 歌う一人気が出る 完了 全国  
 この曲はここ数年間中国全土でヒットするようになった。

例(18b)の「一回」は「一回歌った結果人気が出る」という出来事が一回きりのものであることを表す。それに対して、例(18c)は「ここ数年間複数回歌った結果人気が出る」という持続性のある出来事ことを表す。もう一つの例を見てみよう。

- (19)a ? 他 一次 唱红 了 上海滩。  
 彼 一回で 歌う一人気が出る 完了 上海  
 彼はたった一回歌うだけで上海で人気が出た。
- b 他 在短短一个月內 唱红 了 上海滩。  
 彼 たった一ヶ月の間 歌う一人気が出る 完了 上海  
 彼はたった一ヶ月の間上海で人気が出た。

例(19a)の場合、例(18b)と同じように出来事が一回限りであることを表す。一方、例(19b)の場合「一ヶ月」という極めて短い時間での出来事を表すが、一ヶ月の間に今日はここで歌う、二週間後はあそこで歌うという出来事の数が増え、その結果人気が出ることを表す。このように、「唱红」は(18c)のように「何年間時間をかけてだんだん人気が出てくる」という時間的に継続して人気が出ることも可能だし、(19b)のように時間が短くても、出来事が複数回起こり、人気が一気に「出てくる」ことも可能である。したがって、例(12)と(13)取り上げた歌または演劇が「一気に」という短時間で人気が出るということは出来事の数が増えるということではなく、時間が短いことを表すのである。

### 3.3 “唱红”と共起する場所名詞句

ここでは、3.2で検討した“唱红”の持続時間と場所名詞句の関係について考察してみたい。まず、3.1で取り上げた例(8)と(10)を見てみよう。例(8)の「あらゆる場所に知られるようになった」、例(10)

の「ネットで話題になった」の「あらゆる場所」、「ネット」のような場所名詞句はある程度の広さを持つ場所、特定できない場所である。今回の“CCL”の検索では次のような例も観察された。

- (20) 大中企业 要 真正 昂起 龙头, 当好 主角,  
 大手企業 もし 本当に 上げる リーダー になる 主役  
 最终 必须以 过硬 的 产品 唱红 市场,  
 最終的に 必ず 以て しっかりしている 連体修飾 商品 よく売れる 市場  
 站稳脚跟。(CCL)  
 しっかり立つ  
 大手企業が中心になるためには、最終的には優秀な商品でマーケットで認められなければならない。
- (21) “这 不过是 一场 好戏 刚 开台,  
 これ にすぎない 一幕 見もの ばかり芝居が始まる  
 唱红 市场 才 神气!”(CCL)  
 よく売れる 市場 こそ すごい  
 これは単なる始まりに過ぎない。よく売れることこそ素晴らしい。

例(20)、(21)の「マーケット」場所名詞句も特定されない抽象的な場所である。このような場所名詞句を「ここだけ有名になった」という場所名詞が特定の場所に限定されてしまうと、不適格になるのではないかと思われる。例えば、

- (22) ? 这首歌 唱红 了 这个教室。  
 この曲 歌う一人気が出る 完了 この教室  
 この曲はこの教室でヒットした。

例(22)の「この教室」という場所名詞句は広さを持たない場所で、持続時間を必要とされる“唱红”とは共起しにくい。このように、“唱红”はある程度の広さを持たないものと共起する場合、その持続時間がなくなるため、持続時間がかからない場所とは共起しない。

#### 4. 結論と今後の課題

本稿では、コーパスに基づいて“一紅（「人気が出る」）」のV1の位置に生起する6個の動詞の中で“唱紅”をモデルケースとしてその自動詞用法について分析した。以下の3点でまとめることができる。(1)“唱紅”の自動詞用法は場所名詞句を伴うことが分かった。

(2)“唱紅”は持続性を表す“逐漸”や進行を表す“正”などの副詞と共に起ることによって、「時間をかけてだんだん人気が出る」という持続性のある活動を表せることもわかった。また、時間の継続に幅があるということは出来事の数が増え、一回限りではな

いと分析できることも示してきた。(3)“唱紅”と共に起る場所名詞句は一定の広さを持つ場所でなければならないことも明らかになった。

本稿では、具体例として“唱紅”の項構造とアスペクトの性質を提示・分析した。“唱紅”の持続性を考慮することによって、“唱紅”と場所名詞句の関係、さらに持続性を持つほかのV1 + V2の種類を考察する手がかりが得られる。特に、自動詞化と進行を表すアスペクトの関係についてはまだ不明な点も多いが、両者の関係をより明確にしていくには、ほかのV1 + V2でも同様の現象があるのか、どんな修飾語がつくのかなどをよく分析していく必要がある。

#### 注

- 1 コーパスで“把这些戏演红了”という例が出てきたが、“演”と“一紅”の組み合わせに違和感がある。“把这些戏演红了”の場合、彼が出演することによってこの映画やドラマが有名になったということで、論理的な関係（因果関係）は全く問題なく成立するが、“唱紅”と比べると容認度が低い。
- 2 ここで自動詞と呼ぶのは(3a)のような他動詞の目的語にあたる名詞が主語となる自動詞であることに注意。
- 3 前者(2b)については“他唱红了他自己”のように目的語の位置に主語と同一指示の再帰代名詞が置かれる文から実現されたものであると主張する人もいる。宋文輝(2007)は、このような再帰代名詞の生起に関わる事実を認知言語学の観点から考察し、再帰代名詞が目的語の位置に現れると、強調あるいは対比(対比焦点)の読みを伴うとする。
- 4 CCLにおいては次のように1回のみ出現する。  
 戏 唱红 了, 角儿 也 就 红 了。  
 芝居 演じる一人気が出る 完了 役者 も ならば 人気が出る 完了  
 演劇が有名になると、役者も人気が出る。  
 “人民网报刊杂志 (PEOPLE)”でも1例観察することができた。  
 唱红 中国, 中国 唱红。  
 人気が出る 中国 中国 人気が出る  
 (この例文の訳文については文脈が限られているため、意味が確定できなかった。)
- 5 CCLで「“唱紅”+場所」形式、場所がマーカースとして現れた用例の数は63例のうち14例出現した。前置詞“在”を伴う“在+場所+唱紅”の用例は5例出現した。
- 6 動作が行われた場所：他一屁股就坐在沙发上。(彼はどっかりとソファに腰を下ろした。)  
 状態が行われた場所：画挂在墙上呢。(絵は壁にかかっている。)
- 7 ここでは、“大江南北”という項役割を義務項ではなく、随意項(optional argument)である「場面」(scene-setting)と見なす。つまり、「この曲がヒットした」という出来事が起こった場面を設定する働きを持つ意味役割と見なす。
- 8 “打碎”(「壊す/壊れる」)瞬間的なもので、継続しないが、それに対して“打开”(「開く」)は徐々に変化する過程を描写することができるものである。
- 9 ここでのV1“唱”は実際の「歌う」、「演じる」という意味ではなく、“唱紅”全体は「流行する」という意味を表し、比較的虚な意味を持っている。例(15)と(16)の場合、「歌うことによって人気が出る」

ことを指しているわけではなく、ただ“唱红”全体で「(商品は) 人気が出る、よく売れる、有名になる」ということを意味するだけである。このような“唱红”は語彙化されており、“走红”に接近しているため“走红”に言い換えられる。2.2 で今回の調査では対象外だった“走红”と語彙化された“唱红”との共通性については今後の課題にしたい。

- 10 王媛 (2011) は“抬高物价”(「物価を上げる」)のV1“抬”という動詞の意味内容に「繰り返し(repetitive)」の要素が加わることで、現在進行形を表せると指摘している。

#### 参考文献

- 秋山淳 1996. 非対格性と動詞分類, 『中国語学』(243)。  
安藤貞雄小野隆啓 1993. 『生成文法用語辞典: チョムスキー理論の最新情報』, 大修館書店。  
影山太郎 1996. 『動詞意味論—言語と認知の接点—』, 大修館書店。  
望月圭子 2007. 日本語・英語・中国語の自動詞・他動詞の対照研究, 『台湾における日本研究・日本語教育・外国語教育』東京外国語大学。  
中村捷、金子義明、菊地朗 1989. 『生成文法の基礎: 原理とパラミターのアプローチ』, 研究社出版。  
何元建 2007. 《生成语言学背景下的汉语语法及翻译研究》, 北京大学出版社。  
宋文輝 2007. 《现代汉语动结式的认知研究》, 北京大学出版社。  
王媛 2011. 现代汉语动结式的进行体, 《语言科学》, 第1期(总第50期)。  
袁毓林 2002. 论元角色的层级关系和语义特征, 《世界汉语教学》, 第3期(总第61期)。

#### 使用したコーパス

- 「北京大学オンラインコーパス」2001. [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)  
「人民网报刊杂志」. <http://search.people.com.cn/rmw/GB/bkzzsearch/index.jsp>